



開二小だより

令和8年10月31日
練馬区立開進第二小学校
校長 高石 直貴
<https://www.nerima-kyo.ed.jp/kaishin2-e/>

その先に、誰がいますか

校長 高石 直貴

先日、出かけた際に考えさせられる出来事が二つありました。

一つは、バス停で待っていたときのことです。後ろにいた男性が、食べ終えたアイスのごみを排水溝に押し込んで捨てていました。もう一つは、駅の階段を上っていたときのことです。上りと下りの階段が分けられているにもかかわらず、上り用の階段から下りてくる人が上っている人の存在を気に留める様子もよける様子もなく、そのまま下りていきました。

こうした光景に触れ、私は「想像力」と「判断力」について考えました。ごみを捨てたら、その先はどうなるのか。誰かが掃除をするのではないか。階段では、互いに気持ちよく通行するために何ができるのか。自分の行動が周囲にどのような影響を与え、相手がどんな気持ちになるのか。そこまで想像できれば、行動も変わるのではないのでしょうか。

想像力とは、相手の立場や行動の先に起こることを思い描く力。判断力とは、それを基に、よりよい行動を選ぶ力です。どちらも、これからの社会を生きる子供たちに欠かせない力です。

OECD（経済協力開発機構）の研究でも、共感する力や自分の行動を調整する力、他者との問題を解決する力は、教育を通して育てられることが示されています。大切なのは、言葉で教えるだけでなく、実際に考え、対話し、行動を振り返る経験を積み重ねることです。

学校生活には、その機会がたくさんあります。友達と意見が違うとき、相手の思いを考える。廊下や階段では、周囲を見て安全な行動を選ぶ。係活動や話し合いでは、自分たちの決定がほかの人に与える影響を考える。こうした日常の学びを大切にしながら、「相手はどんな気持ちだろう」「みんなが気持ちよく過ごすにはどうしたらよいだろう」と問い掛け、子供自身が考える機会をつくっていきたいと思います。

また、私たち大人の姿も、子供たちにとって大切な学びです。困っている人に手を差し伸べる姿や、公共の場を大切に使う姿は、言葉以上に子供たちの心に残ります。学校も家庭も地域も、それぞれの場で子供たちの成長を支えていければと思います。

想像し、判断し、行動する。そして、その結果を振り返り、次につなげる。この積み重ねが、自分も相手も大切にする力を育みます。その先に誰がいるのか。子供たちが目の前のことだけでなく、その先にいる人にも目を向け、自分で考え、よりよい行動を選ぶよう、日々の何気ない場面を大切な学びにつなげてまいります。